

映像と言語の往復に着目し、情報の編集力を高める指導の工夫

ータブレット端末の可能性を職員に実感させる取組としてー

仙台市立六郷小学校 校長 菅原 弘一

キーワード：情報編集力、情報活用能力、タブレット端末

実践の概要

情報の編集・発信場面でのタブレット端末の活用効果が実感できるよう、カメラ機能や画面キャプチャ機能を「映像と言語の往復」に活用する授業を試みた。実際の授業場面を見合うことで教師の意識が変わり、ICT活用の機会を増やす契機となった。

1. 目的・目標

本校では、宮城教育大学、東北学院大学、仙台市教育センターの支援を受け、無線 LAN 環境を整え、40台のタブレット端末を普通教室等で使用できるようにしている。しかし、協働学習支援ツールや授業支援ツールの導入はなく、タブレット端末活用は web コンテンツからの情報収集やカメラ機能の利用が主となっていた。職員の多くは、タブレット端末が普通教室で使える環境にあっても、情報収集以外の利用がイメージできず、活用意欲も高まっていなかった。

また、児童の実態として、情報収集の手段としての ICT 活用には自信があるが、情報の編集・発信の手段としての ICT 活用に自信が持てないでいることがわかっている。情報収集の手段以外でのタブレット端末活用の機会を増やす必要は児童の実態からも明らかであった。

そこで、タブレット端末のカメラ機能や画面キャプチャ機能を「映像と言語の往復」に活用することで「情報の編集力」を高めることに主眼を置き、活用効果を授業実践で示すことを試みた。実際の授業場面を見合うことで教師の意識を変え、それが情報の編集・発信場面での ICT 活用の機会を増やす契機となることを意図として取組を進めた。

2. 実践内容

2. 1 実践①「ことわざを写真で表そう」

第4学年国語科における授業実践である。京都橘大学の池田修教授が、「ことわざ」の学習をする小学生向けに考案した「ことわざを写真で表現する」という学習プログラムを参考に行った授業実践である。

タブレット端末を用いた映像表現の過程をとおして、映像と言語を往復させ、ことわざについての関心を高めたり、理解を深めたりすることをねらった(写真1)。



写真1 ことわざの意味を確認しながら再撮影

2. 2 実践②「これからの食料生産とわたしたち」

第5学年社会科における授業実践である。聖心女子大学の益川弘如教授の指導を受け、東京大学 CoREF が提唱している「知識構成型ジグソー法」の考えに基づいて、情報活用能力を育むための ICT 活用という観点から授業を設計した。

情報源として、番組に加え豊富な動画クリップが用意されている NHK for School『未来広告ジャパン!』を活用し、動画の分担視聴を取り入れた。

【実践①「ことわざ「絵にかいたもち」を写真で表そう」の学習内容】

●指導目標／ことわざや故事成語について知り、意味を理解して使うことができる。

●評価／ことわざや故事成語について知り、意味や使い方を理解して、自分の表現に生かして使っている。

【指導略案】

●単元指導計画（全体時間4時間）

(1) ことわざや故事成語に興味を持たせる（1時間）

(2) 指定されたことわざを写真で表す（2時間）

① ことわざ「絵にかいたもち」の写真を撮る。

② 撮った写真を見直す。

③ 写真を撮り直す。

④ 撮り直した写真を見合う。

(4) 興味をもったことわざについて調べ発表する。（1時間）

●本時の目標と展開（平成29年7月 児童数39名）

ことわざについて関心を持ち、ことわざには意味があり、適切な使い方があることを理解する。

学習活動	指導上の留意点
1. 課題の提示：ことわざ「絵にかいたもち」を写真で表そう！	・取組のモデルを示して興味を持たせる。
2. 1回目の撮影：紙に描かれた餅の絵と割り箸を使って、グループごとにタブレット端末で写真を撮影する。	・思いのままに自由に撮影させる。
3. 撮影結果を全体で共有し、写真がことわざの意味を表しているのかを辞典を使って確認する。	・辞典を使って本来の意味や複数の意味があることを確認させ、意味を表すための撮影ポイントを十分に考えさせる。
4. ことわざの意味を表す写真を撮影するためのポイントを話し合う。	
4. 2回目の撮影を行う。	・意味を表す写真になっているか確認させながら撮影させる。
5. 撮影した写真と撮影の意図を発表する。	・撮影の意図を説明できるように促す。



写真2 タブレット端末の画面を示しながら説明

3. 成果

3.1 実践①「ことわざを写真で表そう」

教科書通りに行えば、興味をもったことわざを選択し、意味を調べて「ことわざブック」等で表現する学習である。辞典から情報を写し取り、転記した情報をそのまま伝えて終わってしまうことも多い。情報を編集し表現する場面に写真撮影を取り入れ、言葉から写真、写真から言葉へと表現形式を変えるようにしたことで、「絵にかいたもち」の意味は「本当にそうなのか?」「本当はどういう意味なのか?」と注意深く考えるようになった。そして、意味通りの写真にするためには、「おいしそうに食べる」のではなく、「もどかしい」とか「回りくどい」といった意味を伝えなければならないことに気づき、写真での表現も変化していった。

授業後の振り返りでは、「ことわざの本当の意味は自分が思っているのと全く違っていたことが分かった。」「全然違う意味で面白かった。」等の記述が見られ、ほとんどの児童が、ことわざの「意味」を学ぶことができた実感していることがわかった。また、「もっとたくさんのことわざの意味も知りたいと思った。」等、さらに調べてみたいという意欲を高めることにも役立っていた。授業を参観した教師は皆、ことわざと写真を往復させたことによる理解や意欲の高まり、タブレット端末の手軽さを実感し、タブレット端末の活用に関心を示すようになった。

3.2 実践②「これからの食料生産とわたしたち」

授業を参観した多くの教師が、子供たちが、資料丸写しの伝達ではなく、タブレット端末で画像を示しながら自分の言葉で必死に説明しようとする姿を評価した。画像を示しながら話すことが、いったん収集した情報を咀嚼することを促し、自分の言葉で伝えようとするにつながった。授業後の振り返りは、自分が視聴した動画の内容を中心に記述したもの、他のクリップの内容にも触れながら記述したものなど様々であった。いずれも、異なる視点での動画視聴とその結果を整理する活動を通して、情報が編集された様子を読み取れるものであった。ただし、この授業を成立させるためには、動画からの情報収集や付箋紙を使った情報整理など、情報活用スキルの獲得が必要であった(写真2)。単にタブレット端末を使えば良いということではなく、情報活用のスキルを計画的に身に付けさせていくことにも意識を向けることができた。情報収集の場面に限らず、編集場面での活用においても子供たちの自信が高まってきた。

4. 今後に向けて

カメラや画面キャプチャの機能など、タブレット端末のごく初歩的な機能の利用でも、「映像と言語の往復」を意図した利用によって、情報の編集力を高めることに役立つことを授業で示すことができた。そのことが、タブレット端末の活用を「ここから始めてみよう」という教師の意識の高まりにつながり、複数の学年・学級で様々な実践が試みられ始めている。

また、率先して授業に挑戦した教師らは、思い描いた授業を成立させるための情報活用スキルや、協働的な課題解決に取り組む際の基盤となる心や態度を計画的に育成する必要性に気づき始めた。「情報活用」をキーワードとしたカリキュラム・マネジメントの大切さを実感したといえる。こうした個々の教師の気づきを学校としての取組へと発展させていきたいと考えている。

<p>【実践②「これからの食料生産とわたしたち」の学習内容】</p> <p>●指導目標／日本の食料生産の現状を理解し、これからの食料生産の在り方について考えを深める。</p> <p>●評価／様々な視点や立場から日本の食料生産の課題をとらえ、自分の考えを持つことができる。</p> <p>【指導略案】</p> <p>●単元指導計画（全体時間5時間）</p> <p>(1)単元を通じた学習課題を把握する（2/3時間）</p> <p>日本の食料生産のこれからのについて考えよう！</p> <p>(2)日本の食料自給率はこのままでよいのか考える（4/3時間）</p> <p>(3)日本の食料生産の課題を解決する方策をCMにまとめる（2時間）</p> <p>①CM作成の見直しを持つ。</p> <p>②必要な情報を調べる。</p> <p>③CMを作成する。</p> <p>(4)CMを発表し、学習全体を振り返る。（1時間）</p> <p>●本時の目標と展開（平成29年9月 児童数32名）</p> <p>我が国の食料生産の現状や課題について理解し、これからの日本の食料生産の在り方について考えを深めようとする。</p>	<p>学習活動</p> <p>1. 日本の食料自給率の現状を知り、本時の学習課題を把握する。</p> <p>日本の食料自給率はこのままでよいのか?</p>	<p>指導上の留意点</p> <p>・取組のモデルを示して興味を持たせる。</p>
	<p>2. 専門家グループに分かれ、タブレット端末を活用して動画を分担視聴する。</p>	<p>・日本の食料生産に関する異なる視点から4種の動画を分担視聴させる。</p>
	<p>3. 混合グループに戻り、キャプチャしたキーシーンを示しながら4種の動画の内容を伝え合う。</p>	<p>・考えを付箋紙に書き出し、「綱引きシート」に貼付しながら意見を整理させる。</p>
	<p>4. 混合グループ内で意見をまとめる。</p> <p>4. 混合グループの考えを発表し共有する。</p>	<p>・考えをまとめる際の根拠を明確に示すように促す。</p>
	<p>5. 「これからの日本はどうしたらよいのか」考えをまとめる。</p>	<p>・個人の考えをまとめるようにする。</p>